

キッズコーナー

小学生、中学生に読んでもらいたい記事を
のせています。読めない字があったら、おうちの人に教えてもらってね。

私たちの身近な文化財

「鈴木ばやし」

「鈴木ばやし」は、小平市内の鈴木町、江戸時代には鈴木新田だった地区に伝わる郷土芸能です。鈴木新田の村人だった深谷定右衛門が、田淵（現在の杉並区阿佐ヶ谷）に住む横川初五郎から伝授された江戸祭囃子を鈴木新田で人々に勧め、伝承者たちが広めたことから始まりました。江戸時代末期の弘化4年(1847)ごろといわれています。嘉永6年(1853)のアメリカ合衆国のペリー提督による黒船来航の6年前のことです。

当時、若者たちの中には、お酒の飲みすぎや賭けごとなどが流行り、それに心を痛めた深谷定右衛門は、若者の健やかな成長にようしめとして江戸祭囃子を広めました。江戸祭囃子は、江戸時代中期ごろに創作された葛西囃子をもとに生まれたもので、この江戸囃子が鈴木新田に広まる中で生まれたものが「鈴木ばやし」です。

鈴木ばやしは、笛1人、締め太鼓2人、大太鼓1人、かね1人の5人で演奏し、五人囃子とも言われます。笛は、囃子全体を先導する役割を持ち、締め太鼓は2基の小太鼓で右側の太鼓は左側の太鼓よりも二音階高く調律しています。

大太鼓は笛のリードに従い、締め太鼓の調子に合わせて合間に打ち込んでいきます。かねは、ほかの4人が調子よく演奏できるように助ける役割があります。

曲目は、「昇殿」から始まり、「屋台」、「宮昇殿」、「鎌倉」、「くにがため」、「せめ」、「しちょうめ」と続き、最後に「屋台」を再度演奏して終了するのが、いわゆる「とおりのばやし」と言われるもので、その他に、単独で「にんば」という曲が演奏されます。

曲ごとに舞があり、「獅子」「きつね」「おかめ」「ひょっとこ」「道化」「たぬき」「がんにゃ」などが舞を演じます。

お囃子は、もともとは神社の例祭での神事であり、鈴木ばやしはこれまで鈴木新田の鎮守(村の守り神)鈴木稲荷神社の祭礼で演奏され、受け継がれてきました。

昭和30年代以降、小平は農地の宅地化や団地の建設など、農村から住宅地へ都市化が進んでいきました。人々の生活様式や楽しみが変わっていったことでお囃子への関心が薄くなり、小平の村々に伝わった江戸祭囃子は、鈴木

地区以外は途切れてしまいました。鈴木ばやしも、戦争による中断や継承者の減少など、何度か消滅の危機がありました。

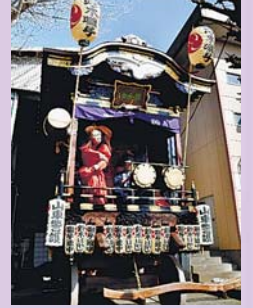
昭和45年(1970)、鈴木ばやしの文化的な重要性が評価され、小平市から無形民俗文化財に指定されました。同時に有志によって「鈴木ばやし保存会」も結成され、鈴木ばやしを多くの人に知ってもらうことと後継者を育てることに取り組まれています。最近では、いろいろな催しで演奏の依頼が増えたため、状況に応じて曲の構成を変えるようになっています。

鈴木ばやしは、神社の神楽殿の舞台上や演奏先で組み立て式の舞台を設置して演奏が行われていました。平成29年には、かつて使われていた古い組み立て式舞台の部材が囃子連のお宅の倉庫から発見され、関係者による舞台の組み立て再現が行われました(写真1)。この舞台は昭和63年(1988)まで使われていたそうです。

昭和51年(1976)に行われた第1回小平市民まつりに参加する際、鈴木ばやしは東村山市久米川町の熊野神社より山車を借りて、初めて山車の舞台上で演奏されました。この演奏は大きな反響を呼び、小平市の鈴木ばやしにも山車を建設しようと募金活動を行ったところ瞬く間に集まり、山車が建設されました(写真2)。第3回小平市民まつりで、この新しい山車が発表され、鈴木ばやしの演奏も行われました。

現在、小平市内に残る伝統芸能としてのお囃子は、鈴木ばやしだけが唯一のものとなっています。そのため、現在鈴木ばやしは鈴木稲荷神社以外にも小平神明宮、熊野宮、武蔵野神社等の神社その他から多数の出演依頼があり、小平市のお囃子としてイベントなどに欠かせない存在となっています。

なお、鈴木ばやしの演奏は、平成24年の小平市制50周年時に映像記録化され、市のホームページに掲載されています。また、文化スポーツ課でDVDやBlu-rayディスクの貸し出しも行っていきます。



〈写真1 組み立て式舞台再現の様子〉
〈写真2 建設された山車〉

イベント参加時のお願い

自宅で検温の上、体調不良の方は、来場を控えてください。
飛沫感染防止のため、休憩中や会話の際など、正しいマスクの着用にご協力ください。
せきエチケットや手洗い、手指消毒を徹底してください。
必要に応じて保健所等に個人情報を提供する場合があります。

中央公民館音楽会

親子で楽しむチリンとドロン

歌とコントラバスのシンプルな音楽に合わせて、様々なわらべうたを楽しみます。子どもはもちろん、大人も楽しめる音楽で、やさしくて楽しい時間を一緒に過ごしませんか。

とき 令和4年1月29日(土)午前11時~正午
ところ 中央公民館 ホール
対象 市内在住の子どもと保護者(子どものみの参加も可)
出演者 チリンとドロン
申込み 令和4年1月11日(火)までに東京電子自治体共同運営サービスホームページ(スマートフォンからは、右のQRコードを読み取ってアクセス)もしくはメールでタイトルを親子音楽会とし、住所、氏名、年齢、電話番号を記入のうえ問合せ先へ(申込多数の場合は抽選)
メールアドレス kominkan-koza@city.kodaira.lg.jp
問合せ 中央公民館 ☎042(341)0861



チリンとドロン

申込みQR



スマートフォン用

花小金井南公民館

開館40周年記念 講演会・音楽会

開館40周年を記念し、地域密着型の講演会と音楽会を開催します。

第1部：講演会

「東京五輪を終えて」～子育てから、表彰台まで～
講師 村上英子さん(東京五輪・体操 村上茉愛さんの母親)



村上英子さん

第2部：音楽会

「世界の音楽をギターの調べで」
～日本の名曲から映画音楽、ポピュラー、タンゴ等～
出演者 蓮見昭夫さん(花小金井在住のプロ・ギタリスト)



蓮見昭夫さん

とき 令和4年3月19日(土)午後2時~3時30分

ところ 中央公民館 ホール

対象 市内在住の方

定員 30名(抽選)

申込み 2月25日(金)まで(月曜日を除く)の午前9時から午後5時までに花小金井南公民館へ(電話可)。申込み多数の場合は、抽選し、2月26日(土)以降、全員に結果を連絡します。

※当選者には、事前に入場整理券を送付します。

問合せ 花小金井南公民館 ☎042(461)0861



小平市 平櫛田中彫刻美術館
KODAIRA HIRAKUSHI DENCHU ART MUSEUM

◆冬の展覧会◆

企画展示 彫刻道場Ⅱ

彫刻はつくり方が分かるともっと楽しむことができます。彫刻を制作するための道具や、ブロンズ作品ができるまでの模型を展示します。

とき 令和4年2月13日(日)まで



開館時間 午前10時から午後4時まで ※なるべく、午後3時30分までに入館してください。

休館日 火曜日(祝日、または振替休日)に当たる場合は開館し、翌日休館)

観覧料 一般…300円、小・中学生…150円

※駐車場をご利用の方はご相談ください。

問合せ 平櫛田中彫刻美術館 ☎042(341)0098

忘れない3.11展

2011年3月11日に発生した東日本大震災から11年。被災地は今どうなっているか知っていただく企画展を開催します。

とき 令和4年3月8日(火)~13日(日)午前10時~午後5時

ところ 中央公民館

内容 展示、AED体験、ビデオ上映、講演会ほか

問合せ 中央公民館 ☎042(341)0861

忘れない3.11展実行委員会・奥野 ☎090(2402)5704